

プロジェクト名 島根県における歴史的文化遺産の景観復原に関する学際的研究 - 石見銀山・出雲大社・松江を中心として -

プロジェクトリーダー 船杉 力修 所属 法文学部  
電子メール funasuqi@soc.shimane-u.ac.jp

プロジェクトの概要 (プロジェクトの最終年度における到達目標を簡潔に記入してください)

本研究は、島根県に残る歴史的文化遺産のうち、石見銀山・出雲大社・城下町松江を中心に、絵図・古文書を通して文化遺産の景観復原を行うものである。本県では世界遺産登録を目指している石見銀山をはじめ、わが国でも有数の伝統的文化景観が多く残存しているが、そうした景観を総括的に押さえた研究は少ない。本研究では、景観を復原する素材として、広島大学図書館所蔵の「中国五県土地・租税資料文庫」のうち明治初期作成の地籍図及び、地域に残る関連史料を使用する。本研究では平成16年度に地域と連携し開催した絵図展の実績をふまえ、明治初期の絵図および関連の史料を撮影・調査することにより、伝統的な文化遺産の景観を復原し、地域の経済・社会構造を読み解き、島根県の文化・社会の特徴を総合的に明らかにすることを目的とする。特に平成17年度は世界遺産登録にむけて準備が進められている石見銀山を中心に、絵図及び関連史料の調査を通して、鉱山地域の繁栄について、地域的視点だけでなく、国際的視点からも考察を進めることとしたい。世界遺産登録にむけて最終準備が進められている、石見銀山及びその周辺地域、歴史的景観が残存し全国から観光客が集まる出雲大社・松江を事例とする。最終年度における具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 絵図の撮影・デジタル化および関連史料の調査の実施
- (2) 絵図に記載される文字の解読、記載内容の分析(島根大学)
- (3) 絵図に関する聞き取り調査及び古文書調査(大田市・出雲市・松江市と連携)
- (4) 調査成果の公開、利活用についての研究(地元自治体と連携)
- (5) 調査成果に関する報告書またはパンフレットの刊行
- (6) 調査成果に関するシンポジウムまたは研究会の開催

プロジェクトのメンバー及び役割

氏名	所属(職)	本年度の役割分担
船杉 力修	法文学部・助教授	プロジェクトの総括、絵図の分析
作野 広和	教育学部・助教授	調査成果の公開・利活用(GIS)についての研究
小林 准士	法文学部・助教授	近世史料の調査・研究
竹永 三男	法文学部・教授	近代史料の調査・研究
奥田 正義	附属図書館・図書課長	広島大学図書館との協議・調整

本年度の研究計画と目標 (本年度当初の計画書に書かれた内容に沿って、計画と達成目標を簡条書きにしてください)

- (1) 石見銀山およびその周辺の絵図の写真撮影、デジタル化(広島大学図書館)  
: 石見銀山およびその周辺地域の絵図を、パソコン上で示すか、もしくは紙焼きして示し、デジタル化の成果を提示する。
- (2) 絵図に記載される文字の解読、記載内容の分析(島根大学)  
: 絵図に記載される文字や記載内容から考えられる作業仮説を提示する。
- (3) 絵図に関する聞き取り調査及び古文書調査(大田市・仁摩町・温泉津町)  
: 絵図の記載内容に関する聞き取り調査および古文書調査の成果の概要を提示する。
- (4) 調査成果の公開、利活用についての研究(島根大学)  
: 調査成果の公開、利活用に関する研究成果の概要(案)を提示する。

**計画の達成状況と自己評価** (前項で記載された計画の達成状況を項目毎に記載してください。また、年度目標に対する達成状況を項目毎に以下の基準に従って自己評価してください。A:目標以上に成果をあげた、B:ほぼ目標通りの達成度で予定した成果をあげている、C:計画より遅れ気味であるが年度末には目標達成が可能である、D:年度末までに目標達成は不可能である。Dの場合はその原因と対応策についても記載してください。2～3月に行う計画のため未執行の場合には評価は空欄にしてください)

(1)A:7月29日プロジェクトメンバーが広島大学図書館を訪問し、該当地域の絵図を調査、撮影した。また次年度撮影予定であった松江の絵図の一部も撮影した。現在撮影絵図の画像統合など、デジタル化にむけた作業を専門業者に委託し進めている。調査成果の一部は11月末に附属図書館で開催する絵図展で展示した。

(2)B:7月29日での広島大学図書館での調査、およびその後の大学での調査絵図の検討によって、絵図の記載内容の分析を進めた。さらに2月10日の石見銀山文献調査団の会議(大田市)でも、絵図の検討を行った。成果の一部は上記附属図書館開催絵図展にあわせて開催される講演会で提示した。

(3)B:7月29日の調査の際に、大田市の石見銀山調査関係者および東京都から石見銀山文献調査団のメンバーが参加し、記載内容について聞き取りおよび調査成果の情報交換を行った。また大田市内で古文書調査と現地調査を行った。2月20日には、大田市大森地区で絵図の聞き取り調査を行った。調査成果の一部は上記(2)同様講演会で提示した。

(4)A:産官学(松江市歴史資料館整備室・広工)と連携し、調査成果の公開について、検討を開始した。公開の一方法として、GISを利用し、絵図と現代の空中写真の重ね合わせを行うこととなった。11月下旬から松江市と地元自治会と連携し、学術調査を行っている。利活用に関する研究成果の一つとして、マルチメディアテーブル「松江歴史マップ」の改訂版を産官学(けいはんな情報通信融合研究センター・松江市・ワコムアイティ・広工)が連携して作成した。11月末の附属図書館開催の絵図展で成果の一部を展示・報告した。

**公表論文、学会発表など** (別途添付していただく個人調書の中から年度末までに発行される学術雑誌等(紀要も含む)に掲載が確定しているものも含め、代表的なものを10件程度選んでください。発明等に関しては差し支えない範囲で記載してください)

(1)公表論文など

『絵図の世界 - 出雲国・隠岐国・桑原文庫の絵図 - 』(図録)、島根大学附属図書館編(プロジェクトメンバーが編集)・発行、2006年(印刷中)

『絵図の世界 - 出雲国・隠岐国・桑原文庫の絵図 - 』、島根大学附属図書館編(プロジェクトメンバーが編集)・発行、2005年

『よみがえる天神町』、島根大学法文学部地理学研究室編(プロジェクトメンバーが編集)・発行、2005年

「元禄年中松江末次本町町内図」について、船杉力修、淞雲、第4号、2005年

『海辺の多伎図書館デジタルライブラリー - 絵図・検地帳など歴史資料の館内閲覧システム - 』、海辺の多伎図書館編(プロジェクトメンバーが編集)発行、2005年

『石見銀山史料集』(印刷中)石見銀山歴史文献調査団編(小林准士らが編集)、レフリーなし、2006年

(2)学会発表など

船杉力修:「近世における城下町松江の景観 - 橋南地区町絵図を事例として - 」、中国四国歴史学地理学協会大会(地理学部会)、島根大学教養講義棟、2005年

船杉力修「近世日本海の高運について」、松江藩講座、松江市総合文化センター、2005年

小林准士「宍道町資料に見る在郷町の役割」、松江藩講座、松江市総合文化センター、2005年

**外部資金の獲得状況、その他、特筆すべき成果** (シンポジウムの開催、産学連携・地域連携に関する各種見本市、展示会への出展なども含む)

(1)外部資金の獲得状況

船杉力修:平成17年度受託研究「マルチメディアテーブルのコンテンツの活用と改良に関する研究」460万円

小林准士(研究代表者):平成17年度～科研・基盤研究(B)「銀の流通と石見銀山周辺地域に関する歴史学的研究」1020万円

竹永三男(研究代表者):平成14～17年度科研・基盤研究(B)「中山間地における地域形成とその歴史的特性に関する総合研究 島根県石見地方の地域調査と鳥取県日野地方の被災史料救出保全活動の成果をもとに 」950万円

(2)その他

附属図書館での絵図展及び講演会の開催(プロジェクトメンバーを中心に、島根地理学会・島根史学会と連携し、成果の一部を展示) 調査成果の利活用についての

検討(松江市歴史資料館整備室と連携、11月下旬に現地での学術調査を開催予定)

「松江歴史マップ」(マルチメディアテーブル)の改訂版の作成(けいはんな情報通信融合研究センター・松江市・ワコムアイティと産学官連携、絵図展で展示)

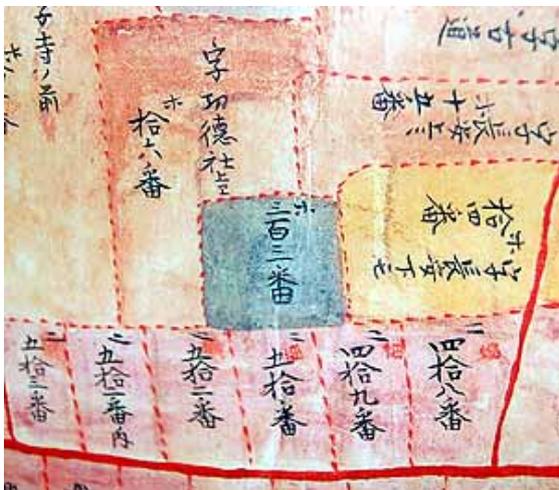
本年度の主要な研究成果(図,表,ポンチ絵などを多用して,2ページ以内にわかりやすくまとめてください)

### (1) 絵図のデジタル化の完成



産官学の共同研究の成果として、石見銀山と松江(一部)の絵図のデジタル化と行った。大型絵図を分割撮影した後、画像合成を行い、画像ソフトZOOMAを使用して、パソコン上で絵図の拡大・縮小が可能となった。調査成果の一部は、11月の附属図書館での絵図展で展示した。明治期地籍図のデジタル化は全国でもまだ事例が限られている。今後デジタル史料を共同利用し、研究が進められる。

### (2) 絵図の解読、記載内容の分析の成果



これまでの分析の結果、明治期の地籍図が、明治初期の銀山の状況を示す重要な史料であることが分かってきた。土地利用をみると、荒市街・荒田・荒畑などの記載があり、明治初期の浜田地震をきっかけに銀山が衰退に向かっていることが分かった。その一方で銀山地区には依然として市街地があることも注目される。さらに寺院・墓地・町名など詳細に記されていることから、かつての銀山繁栄の様子を窺うことができ、今後現地調査により、研究を深める予定である。

### (3) 古文書調査の成果

石見銀山では、石見銀山資料館に1825(文政8)年「町方間数帳」の所在が確認された。江戸時代後期の森地区での屋敷の配列が記されている史料である。今回デジタル化した史料とのつきあわせにより、江戸時代後期から明治初期の森地区の景観が復原可能となる。来年度地元の石見銀山資料館などと連携し、研究を進める予定である。さらに森地区の代官所の御用商人であった熊谷家の史料調査の結果、熊谷家が所有する屋敷を記した史料も見つかった。森地区の社会経済のあり方を示す重要な史料であるので、今後の研究で活用を検討している。松江では、白瀧地区で江戸時代後期の屋敷絵図や近代の写真が出てきた。さらに雲南市吉田町の田部家の史料に、白瀧地区の鉄問屋の記載が多数見つかった。今後絵図の調査の並行して、関連資料の発掘、分析を続ける予定である。

## 本年度の主要な研究成果(続き)

## (4) 調査成果の公開、利活用についての成果

昨年秋の附属図書館開催の絵図展で、調査成果の一部を公開した。調査成果の公開については、画像ソフトZOOMAを活用し、大画面のプロジェクターで絵図を映し、直接画面の触れることで、絵図を拡大・縮小することが可能となった。また、産官学共同で、マルチメディアテーブルのコンテンツとして、松江歴史マップの改訂版を作成し、絵図展で展示した。本プロジェクトの成果の一部もおさめることができた。こうしたデジタルコンテンツ化の成果は、特に学生など若い世代から反応があり、今後キャンパス・ミュージアムや大学での教育・研究に活用することができると思われる。絵図展では、絵図に関する講演会もあわせて実施し、成果の一部をプロジェクトメンバーが発表したところ、学内外から160名もの参加があった。また研究成果の一部は、教育でも活用され、学生が、絵図の解読、分析、成果発表を、絵図展の際に行った。

